

短い投資回収期間と高い投資利回りが魅力の『太陽でんき®』

	工場	物流倉庫	介護施設	旅館	スーパーマーケット
契約電力	150kW	185kW	220kW	235kW	275kW
年間の電力使用量	341,640kWh	453,768kWh	770,880kWh	770,880kWh	1,059,960kWh
太陽光発電設備の容量	50kW	50kW	65kW	90kW	120kW
従来の年間電気代	728万円	988万円	1,502万円	1,668万円	2,066万円
設備導入後の年間電気代	<b>597万円</b>	<b>785万円</b>	<b>1,276万円</b>	<b>1,396万円</b>	<b>1,670万円</b>
年間の電気代削減額	<b>131万円</b>	<b>203万円</b>	<b>226万円</b>	<b>272万円</b>	<b>396万円</b>
初期投資額	1,150万円	1,150万円	1,495万円	2,070万円	2,760万円
実質初期投資額*	747万5,000円	747万5,000円	971万7,000円	1,345万5,000円	1,794万円
投資回収期間	<b>5.7年</b>	<b>3.7年</b>	<b>4.3年</b>	<b>5.0年</b>	<b>4.6年</b>
投資利回り	<b>17.5%</b>	<b>27.1%</b>	<b>23.2%</b>	<b>20.2%</b>	<b>22.0%</b>

\* 法人税率を35%とし、中小企業経営強化税制の即時償却を活用した場合

収める画期的な新商品が生まれたのである。

『太陽でんき®』で自家消費が覚醒か

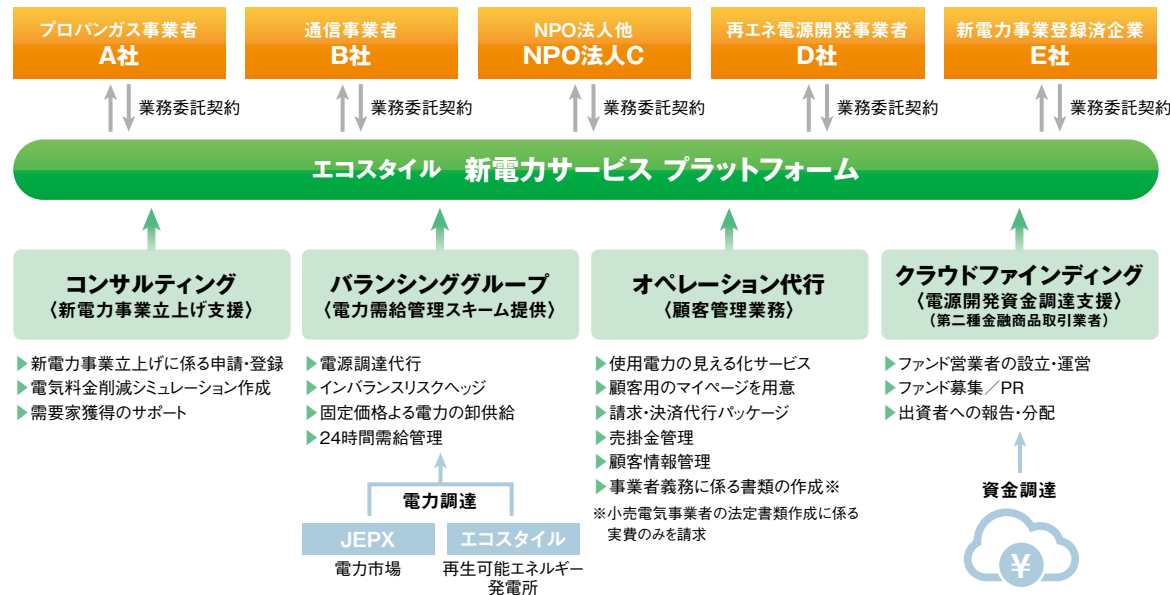
むしろ、施設によって電力の使用状況が違うため、太陽でんき®の導入による電気代の削減幅は異なる。それでも、屋根に太陽光パネルを設置できるスペースがあれば、ほとんどの施設に設置できるようだ。事実、同社は、工場、物流倉庫、介護施設、旅館、スーパーマーケットなど、あらゆる施設に太陽でんき®を導入した場合のシミュレーションを実施、各々で高い利回りを提示している。

同社の木下公貴社長は、「投資利回りは、比較的小さいところでも14%以上、施設によっては27%を超えるケースもあり、FIT売電より遥かに高いのです」とアピールする。

その同社は、協力会社を募って太陽光発電の自家消費モデルを全国に広める活動に力を入れている。木下社長はこう訴えた。「自家消費モデルは、FIT売電モデルと違って、

エコスタイルが提供する新電力事業サポートサービス

初期費用0円・インバランスリスクゼロ・市場リスクゼロ



電気代の削減効果をお客様に納得してもらう必要があるので一気に導入が進むものではありません。だから

こそ協力会社さんのお力が必要なのです。税制優遇がある2年間で自家消費を広め、太陽光発電を日本に根

FIT売電よりお得!? エコスタイル発 『太陽でんき®』の魅力と大義

PC (設計・調達・建設) 大手のエコスタイル (木下公貴社長) が販売する自家消費用の太陽光発電設備が話題を呼んでいる。4月に発売した『太陽でんき®』が投資利回りにして実に20%を超えるというのだ。どのような商品なのか。

エコスタイルが提供する『太陽でんき®』は、自家消費用の太陽光発電設備と電力小売りを組み合わせた独自の複合サービスゆえ、導入メリットが非常に大きい。実際、施設のオーナーが太陽でんき®を導入すると、電気代を大幅に削減でき、その削減額で設備投資を概ね数年で回収できる。設備は20年稼働するため、償却後の電気代の削減額はすべてオーナーの利益だ。つまり、同商品は高利回りの投資商品になり得るのだ。

ともあれ、自家消費用の太陽光発電設備といえば、投資回収期間は10年程度というのが相場だ。ではなぜ、太陽でんき®は常識を超えた魅力ある商品になり得たのだろうか。

ひとつは、エコスタイルが、太陽光発電設備を圧倒的に安い価格帯で建設できること。換言すれば、設備の設置における同社のコスト競争力が太陽でんき®を投資商品ならしめたのだ。

たとえば、折板屋根用の太陽光発電設備ならば、施工費を含む同社の売値はBV単価税抜17・2万円である。設備の年間稼働時間を1000時間、耐用年数を20年

エコスタイルが新電力を徹底支援

さらに、エコスタイルは、プロパンガス販売店や通信会社、NPO法人、再生エネルギー開発会社などを対象に、新電力事業の参入支援を始めた。事業の立ち上げから電力の需給管理や顧客管理に至るバックオフィス業務を一貫して請け負うというのだ。恐らくこれほど手厚い新電力支援サービスは他にないだろう。

というのも、新電力事業にはリスクが伴う。電力の需給管理では、30分毎の需要と供給を一致させる同時同量の義務を履行できなければ、罰則金を支払わなければならない。電力を市場から仕入れる際も、市場価格が季節や時間帯で変動するため、逆ザヤが発生してしまうこともある。

こうしたリスクを同社は全て負担し、しかも一切の業務を初期費用ゼロで提供するというのだから、経験のない企業も安心して新電

とすると、発電した電力の単価は8.6円になる。これに対し、電力会社から調達する産業用電力の単価は14〜17円だ。同社の設備で自家消費すれば、BWhあたり5.4〜8.4円の差益が生まれる。

二つ目は、電力小売りにおけるエコスタイルの競争力だ。同社は、気象予報士を抱え、独自の電力需給管理システムを構築。客先の電力需要に合わせた無駄のない電力の調達・供給が可能だ。これにより、夕方や夜間など太陽光電力では賄えない電力需要を割安な『エコスタイルでんき®』で補うことができる。

さらにもうひとつ、自家消費モデルに対して今年4月から国が支援している。注目すべきは、『中小企業経営強化税制』という税制優遇措置だ。今年度から2年間、中小企業は、自家消費用の太陽光発電設備を導入すると、即時償却または税額控除10% (資本金3000万円超1億円以下の法人は7%) が受けられる。つまり、機を得て3つの要素が重なったからこそ、わずか4〜5年で投資を回

力事業に取り組めるはずだ。木下社長は、「電力の小売りは、競合他社との差別化や既存顧客の囲い込みに有効です。当社の支援サービスを活用すれば、容易に参入できノースタックで事業運営できるので、これを機にご検討ください」と述べている。

エコスタイルは、低圧太陽光発電所の建設に特化する選択と集中が功を奏し、急成長を遂げた。2013年3月期に6.5MWだった建設実績は、20・7MW、38・8MW、62・1MWへと拡大し、17年3月期には65・9MWを突破。手掛けた低圧発電所は累計7000カ所にのぼっている。業績も好調で、売上高は13年3月期の28億円から58億円、99億円、129億円と上昇。前期は138億円に達した。

**株式会社エコスタイル**  
[東京本社]  
東京都千代田区丸の内1-4-1  
丸の内永楽ビルディング20F  
TEL ☎0120-010-715  
(経営企画室アライアンス担当)



http://www.taiyo-co.jp